

「ふれあい広場」の各コーナーで紹介する人を募集します。自薦他薦は問いません。日ごろ感じている意見や質問なども募集しています。
あて先=〒028-0592 遠野市東館町8番12号
市政企画室(☎@2111内線235)

ふれあい広場

ともに歩んで 半世紀

16 上組町

犬亦 務 さん (75歳)
ツエ さん (72歳)



50年愚痴を言われたこと無し
— 思い出は家族そろっての浄土ヶ浜

結婚のとき、五十年の思い出は、
(務) 父の姉に紹介され、親がごんごん進めていきました。
(ツエ) まじめそうだと思いましたが、農家から商売屋に嫁いだので心配でした。
(務) 私は大工、家では商売と、お互いにずっと忙しかつた。ときにはカンナ引きも手伝ってもらいました。
(ツエ) 子どもたちは義母に預けて働きました。家族みんなそろって浄土ヶ浜に行つたときは楽しかったです。
— 今の楽しみ、お互いに言いたいことは、
(務) 孫の成長が楽しみです。グラウンドゴルフをしたり、友人と囲碁将棋をしたり、ときにはファミコンも使います。
(ツエ) 店に来る人や老人クラブのみなさんと話をすること。二人で散歩しながら、とびあに買い物に行つてます。
(務) 今まで文句や愚痴を言われたことがありません。ありがたいと思つていきます。一緒に楽しくやっています。
(ツエ) お互いに耳も遠くなってきましたが、いつまでも丈夫でいたいのです。

◆お仕事は…達曽部小学校で用務員をしています。元気な子どもたちと触れ合えて、とても楽しい毎日です。
◆趣味は…小学5年生の時から続けているバスケットボール。現在も週に1回、町内の仲間と練習したり、宮守中学校に指導に行ったりします。
◆休日の過ごし方は…花巻や盛岡に買い物に出掛けることが多いです。
◆自己分析すると…几帳面。
◆好きな女性のタイプ…優しい人。
◆これからやってみたいことは…まだやったことがないスノーボードに挑戦したいです。

青春のトーク

16



スノーボードに挑戦したい

藤原 優人さん
宮守町・22歳・A型・達曽部小学校



おじゃまします サークル クラブ 紹介

8

明るく・楽しく 吟詠で健やかな毎日を 遠野吟詠会

吟詠は、漢詩や和歌などに節を付けてうたうもので、詩に込められた作者の思いを声で表現します。
遠野吟詠会は、昭和六十一年十月に結成。数名でスタートした会員は現在五十二名、県内でも有数の大所帯となりました。
年に二回の昇段審査会のほか、県吟詠剣詩舞道祭などでの発表を目標に週に一度の練習に励んでいます。

「息を大きく吸い、お腹の底から声を出すことは気持ち広がり、健康にもいいんですよ」と話すのは会長の荒田凱夫さん(東館町)。
「明るく・楽しく・健康にをモットーに、活動の輪を広げていきたい」と、市内の小中学校へ指導に出掛けたり、市民センター主催の初心者体験講座で講師を務めたりなどして、吟詠の楽しさを伝えていきます。
毎週火曜日午後六時三十分から、市民センター講義室で活動していますので、お気軽にお越しください。
問い合わせは、事務局 阿部治夫(☎@6056)まで。

風の人

民宿経営の傍ら、こだわりの酒造りに挑む若者

若い人が活躍できる町に

佐々木 要太郎さん (材木町・25歳)



ひとこと インタビュー



及川 雄誌くん
(綾織小・1年)

警察官になって、たくさん泥棒を捕まえます。体育の勉強で跳び箱を跳ぶのが好きです。



菅田 歩未ちゃん
(綾織小・1年)

イチゴのついたケーキが大好きなので、ケーキ屋さんになりたいです。ブランコで遊ぶのが好きです。



類家 沙緒里ちゃん
(土淵小・1年)

大工さんになって大きなホテルを建てたいです。家では、お風呂掃除や靴を揃えるお手伝いをしています。



古屋敷 凌くん
(土淵小・1年)

犬が大好きなので、ペット屋さんになって動物の世話をしたいです。鉄棒やブランコで遊ぶのが好きです。

大きくなったら何になりたい？

祖母、父と六十年続く民宿の三代目。「どぶろく造りと出会って、毎日が充実するようになりました。大げさだけど、生きているんだって実感しています」
平成十五年七月、盛岡市の民間会社を退職し帰郷。ちょうどそのころ、民宿を営む父は構造改修区により認められたどぶろく造りに手を挙げていました。宿の切り盛りで忙しい父の代わりに研修会に出席し、やがてどぶろく造りを担うことに。

盛岡市にある県工業技術センターに何度も足を運び、指導を仰ぎました。現在も県内外の蔵元を訪ね歩き、酒造りを学んでいます。味の向上には適切な温度管理が必要なことから、専用の醸造場を設置。どぶろくはお土産としても提供しているの、車での移動時間や家庭の冷蔵状態を想定した実験も重ねています。すべてが「質の良いものを作りたい」という思いから。「味覚に影響が出る」と愛飲していたたばこも止めました。

「どぶろくは日本酒の原型。どぶろくを通じて、日本酒の良さを伝えたいんです」と、酒造りの話題になると一層目が輝きます。「酒造りに熱中できるのは、たくさんの方の支えがあるからです」と助言をしてくれる周りの人たちや家族に感謝の言葉を続けました。
「遠野を離れた若者が、いつかは故郷に戻って活躍できる、そんな町にしたい。そのために自分も何か役に立てたら」と、若き経営者の酒造りへの挑戦は続きます。